

▽取組事例名	子ども環境学園	▽取組期間	平成24年度～
		▽市町名	松前町

▽取組概要
<p>子どもの頃から地域環境の保全について学び、大人になっても継続できる人材を地域住民と共に育て社会全体のごみ出しルールの順守やマナーの向上を図り、ごみを減らし、地球温暖化防止の理解を深める。</p>

▽取組みの背景
<p>松前町では、平成23年度から15年間に取り組む松前町一般廃棄物処理基本計画をスタートさせ、町民、事業者、行政が一体となって廃棄物の発生抑制、再使用及び再生利用に関する事業を実施することにより、家庭から出るごみを5年毎に一人1日当たり20g減量し、事業所から出るごみを5年毎に10%削減し、本町における循環型社会の実現を目指している。</p> <p>こうした状況をふまえ、松前町子ども環境学園を開催することにより、子供の頃からごみの減量化および5Rに関して幅広く学習する場を提供し、環境に優しい人材を育成することになった。</p>

▽取組みの狙い・具体的内容
<p>(取組みの狙い)</p> <p>子どもたちが子ども環境学園の各講座で学んだことを家庭に持ち帰り実践することにより、家族のリーダーとなり、子どもたちの意識が家族へ、家庭から地域へのごみの減量や地球温暖化防止の取組みが広がっていくことを期待している。</p> <p>他団体と協働で事業を行うことにより、団体相互のごみ減量や地球温暖化防止の取組みや意識が高まることを期待している。</p>
<p>(具体的内容)</p> <p>5月 開講式・オリエンテーション(班分け、ごみ減量・温暖化防止活動の紹介) 学園長：NPO法人いよ環境センター 本田理事長</p> <p>6月 環境体験(EM菌づくり・ソーラーランタンづくり) EM菌づくり：中川原環境部 加藤先生 ソーラーランタンづくり：環境アドバイザー 八束先生</p> <p>7月 自然学習会(ビオトープエミフル) 松前町まちづくり塾 平井先生 講座外 郷土を美しくする清掃 7/7(土) 塩屋海岸ほか</p> <p>8月 5R探検隊(夏休み日帰りバスツアー) 8/21(火) (有)あぐり、松山容器(株)、エミフルMASAKI、(株)オオノ開発</p> <p>11月 講座外 ふるさとの水辺清掃ウォーク参加(河川清掃)</p> <p>1月 環境かるたの絵・標語作成 松前町児童館 和田先生</p> <p>2月 意見発表・修了式</p>

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点(苦労した点)
<p>ごみの減量や地球温暖化防止について、子どもたちが興味を持てる講座内容になるよう、各構成団体の意見を聞きながら、内容の充実に努めた。</p> <p>学校を経由して参加募集したが、子ども達が集まらず、当初予定した人数(100名)に達しなかった。学園がどんなものなのか学園で学ぶことのメリットを理解してもらうことが課題となった。</p>

## ☆工夫した点

子どもたちが興味を持って多数参加でき、講座を体験しながら楽しく学べる内容となるように工夫した。

また、学園の活動について、町広報紙やホームページ等に掲載することにより、地域住民に情報を提供している。

その他、小学1年生から高校3年生までの子ども達と一緒に学習し、気軽に異学年交流ができるように、10人前後の班に編成した。班では、責任を持って活動できるように、班長・副班長・記録係等班員全員に役割を持たせた。

## ▽取り組みの効果

講義を受けた子ども達から、「ごみをなるべく少なくしたい。ごみを出さないように心がける。リサイクルできるものは、なるべくリサイクルする。みんなが頑張れば、ごみが減らせると思った。これからも物を大切にしたい。これからもごみの分別をちゃんとしたい。リサイクルを続けたい。家庭でのごみを一つ一つ減らしていきたい。緑のカーテンで温度が下がってビックリした。」等の素直な感想が聞けており、学園生活を送ることにより、身近な環境を守っていくことの大切さについての理解が深まってきている。

学園で学んだ子ども達が、地域の清掃活動に積極的に参加することにより、父兄や兄弟も清掃に参加するなど、徐々に効果が広がってきている。

## ▽住民（職員）の反応・評価

子ども達は、先生の質問にも積極的に答え、学習を進めている。

班活動では班員同士で助け合い、共同作業することにより、仲間意識を醸成している。

家庭では、講座で作ったEM菌を風呂場やトイレで使ってみる等、身の回りの環境に気を配るようになってきている。

## ☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

学園で学んだ子ども達が、どのように家族にその効果を反映させているのかを検証するため、家族へのアンケート調査を検討している。

## ☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

ごみ減量や温暖化防止について学習する機会を継続して提供するため、子ども環境学園を毎年開催する。子ども達は、子ども環境学園を卒業しても再度入学すれば繰り返し学ぶことができる。

子ども環境学園に参加し、学習で得た知識や体験を地域や家庭において発揮することにより、子ども達を中心としたごみ減量や地球温暖化防止行動の小さな波が同心円で広がり、地域や家庭にできた環と環が交わることにより、社会全体のごみ減量や地球温暖化防止行動の大きな波を起こすことができる。

このように、子供の頃から繰り返し学習することにより、地域や家庭の行動に変化をもたらし、ごみ出しルールの徹底やマナーの向上に理解のある人材を育て、大人になっても正しく行動できる人材を増やしていくことができる。正しく行動できる人材が地域や家庭に増えれば、社会の行動を変えることができ、ごみ減量や温暖化防止を図ることができる。